

平成24シカ年度 幌別-岩尾別地区における密度操作実験案

1. エゾシカ個体群の現状(幌別-岩尾別地区)

1-1. ヘリコプターセンサスの結果(平成 22 年度環境省事業)

2011年2月実施のヘリコプターセンサスにおいて、知床五湖から幌別川までの約8kmの海岸線に沿った台地上(約20km²)で越冬期に確認されたシカの数、2003年3月の約350頭から、3倍の約1200頭へと3倍以上に増加した。その多くは海食台地縁のササ地を利用し、道路沿いから確認できるのはその一部に限られた。

1-2. ライトセンサスの結果(斜里町事業)

幌別-岩尾別地区では、1980年代半ばから春と秋に継続してライトセンサスが行われている。捕獲実施前の2011年で幌別春12.9、秋8.4頭/km、岩尾別春10.6、秋7.1頭/kmで、捕獲実施後の2012年春で幌別6.7、岩尾別2.2で、幌別で半減、岩尾別では8割減となった。幌別では1990年代半ば、岩尾別では1989年の観測開始以来最低の水準であった。但し、岩尾別では流し猟式SS実施ルートと同一のため、捕獲による攪乱の影響も否定できない。今後秋のセンサス結果も踏まえて評価する必要がある。

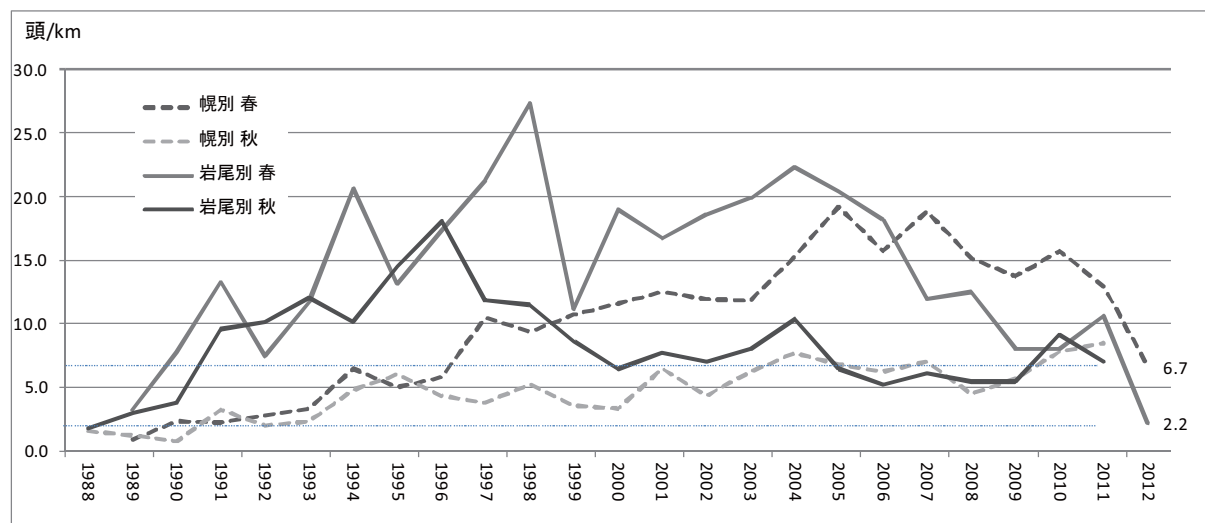


図1. 幌別-岩尾別地区のライトセンサス結果(春 1989~2012, 秋 1988~2011)

1-3. 捕獲手法検討事業結果(環境省事業)

昨年度は3年間の密度操作実験実施に向けた各種捕獲手法の検討開発を行う期間とされ、囲いワナ、くくりワナ、流し猟式SSの各手法によって計452頭捕獲された。

2. 密度操作実験の概要

幌別-岩尾別地区における密度操作実験は3カ年に渡る計画とする。初年度は準備可能な資金、人材は最大限投入し、現状で社会的に許容可能な範囲の中で、全力で捕獲を行う。なお、無積雪期の流し猟式SS、大型囲い柵を使用した巻狩りについては、初年度は手法試験的な位置づけで実施する。

2年目は初年度の効果検証を行った上で、3年間の具体的な数値目標を明確化するとともに、捕獲技術面等で修正可能な点は修正を行う。また、実験後の事業化を念頭に、初年度の成果を基に個体数調整事業の社会的な認知を図り、事業化する上での社会の許容度の向上と、条件緩和に向けた調整を進める。

最終年は実験の総括を行うとともに、技術的な可能性や、社会的条件など多角的に中長期的な目標達成が可能かどうか検討し、事業化(捕獲の継続)の可否について最終的な判断を行う。

3. 平成24シカ年度 捕獲事業内容(幌別-岩尾別地区)

初年度の具体的な捕獲事業の内容については、冬期も観光利用の多い幌別地区では小型囲いワナを主な捕獲手法とし、既設の幌別園地以外に1カ所程度囲いワナ新設を検討する。さらに高密度にシカが分布するものの、地形上囲いワナ設置の困難な幌別川右岸国道沿線では、補助的にくくりワナによる捕獲を行う。

岩尾別地区は冬期閉鎖中の道道上での流し猟式SSを主な手法とし、越冬期最終盤で大型囲い柵を利用した巻狩りを試行する。その他、無積雪期の流し猟式SSについても、斜里町が進めるしれとこ100平方メートル運動地内などで手法としての効果試験を行う。

課題としては、

- ・観光利用と捕獲事業との調整、特に流し猟式SS、大型囲い柵を利用した巻狩りなど銃を用いた捕獲に関して、安全に配慮した上での並立実施の検討。
- ・有効活用前提の捕獲物処理について、有効活用施設受入能力を越えた大量捕獲(特に死体の場合)があった場合の対応方法。

などがあげられる。

3-1. 小型囲いワナ(AIゲート)による捕獲(既設1、新設1~2)

- 期間： 11月中旬設置。11月中旬～馴致・餌付誘引。12~4月捕獲。
- 実施候補地： 幌別地区(鳥獣保護区管理棟裏、H23既設)
岩尾別川河口左岸(新設)
幌別地区(幌別川右岸、あるいは旧マイカー規制乗換臨時駐車場町有地付近を想定し新設。但し新設箇所限られる場合は岩尾別河口を優先)。
- 仕様等： 幌別-岩尾別地区の大規模エゾシカ越冬地の中心部における小型囲いワナを用いた捕獲。AIゲートによる無人監視、自動ゲート閉鎖。
- 検討事項等： 効果的な餌付け誘引方法の開発。
- 捕獲目標頭数： 約200頭。

- 捕獲物処理 生体で譲渡し、有効活用。

3-2. くくりワナによる小規模かつ機動的な手法による捕獲

- 期間： 1～2月捕獲。
- 実施候補地： 幌別地区の国道沿線を想定。
- 捕獲目標頭数： 約100頭
- 捕獲物処理 死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

3-3. 流し猟式SS(無積雪期)

- 期間： 6月、11～12月
- 実施候補地： 100平米運動地作業道
- 検討事項： 無積雪期に効率的捕獲が可能か手法検討を行う。
- 捕獲目標頭数： 約60頭
- 捕獲物処理； 死体で譲渡し、有効活用。
- その他： 手法検討のための試行捕獲との位置づけ

3-4. 流し猟式SS(積雪期)

- 期間： 1～4月
- 実施候補地： 道道知床公園線(岩尾別～知床五湖)
- 検討事項： 冬期観光利用との共存、並列実施の検討。
- 捕獲目標頭数： 約300頭
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

3-5. 大型囲い柵を使った巻狩り

- 期間： 4月(流し猟式SS終了後)
- 実施候補地： 岩尾別
- 検討事項： 大型囲い柵による捕獲技術の確立と捕獲によるスマート化の検証。冬期観光利用との共存、並列実施の検討。初年度は捕獲頭数よりも、手法としての確立を優先する。
- 捕獲目標頭数： 約300頭
- 捕獲物処理： 死体で搬出し、活用可能な場合は有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。
- その他 設置初年度は、積雪期の他手法による捕獲が終了後に捕獲を実施する。

- 囲い柵の構造 既存柵や断崖となった海岸線などと新設柵を上手く組み合わせて、物理的にシカの移動を遮断し、狭隘部に誘導集合させるよう配置する。

表1. 平成23シカ年度の幌別-岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲手法試験(案)

| 手法 | 8~9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|---------------------------------------|------|-------------|---------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------|------------------------------|----|------------------------------|
| | | | <p>⇔ スポットライト センサス</p> | | <p>*シカ越冬地に移動開始</p> | <p>⇔ 冬期利用(岩尾別~五湖)</p> | <p>← シカ海食台地縁、道路法面に集中</p> | | |
| | | | | <p>冬期閉鎖道路</p> | | <p>⇔ 流水期</p> | <p>← 猛禽繁殖期</p> | | |
| | | | | <p>⇔ 岩尾別~五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬~4月下旬</p> | | | | | <p>4月20日頃 岩尾別ゲートオープン</p> |
| 1. 小型罝いワナ (岩尾別河口 新設) (幌別 新設) | | ワナ設計 | <p>⇔ 設置工事</p> | <p>⇔ 馴致・餌付け</p> | <p>⇔ 餌付け+捕獲 *捕獲はシカを十分に誘引した上で10頭未満の小群をこまめに捕獲する。</p> | | | | <p>→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了</p> |
| 2. 小型罝いワナ (幌別 既存) | | | <p>⇔ 修理工事</p> | <p>⇔ 馴致・餌付け</p> | <p>⇔ 餌付け+捕獲 *捕獲はシカを十分に誘引した上で10頭未満の小群をこまめに捕獲する。</p> | | | | <p>→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了</p> |
| 3. くくりワナ (幌別 昨年同様) | | | | <p>⇔ 餌付け</p> | <p>⇔ 餌付け+捕獲 → ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了</p> | | | | |
| 4. 無積雪期流し猟式 SS(手法試験) (100平米運動地) | 6月捕獲 | | <p>⇔ 捕獲</p> | | | | | | |
| 4. 積雪期流し猟式SS (岩尾別) | | 関係機関との調整、協議 | <p>⇔ 捕獲(+餌付け) (岩尾別)</p> | | | | <p>道路沿いの捕獲は岩尾別ゲートオープンまで</p> | | |
| 5. 大型罝い(仕切り)柵を用いた巻狩り (岩尾別) | | 設置工事? | <p>⇔</p> | | | | | | <p>⇔ 捕獲</p> |

平成 24 年度の幌別・岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲予定地



